

新富町 議会だより

121号
2024年1月



新富町

12月定例会

- ・表紙「令和6年はたちの集い」
- ・令和5年度12月定例会報告
- ・10月臨時会報告
- ・一般質問（報告7名が登壇）
- ・議案等の審議結果
- ・行政調査報告
- ・ピックアップ（はたちの集い実行委員会）



石川県能登半島地震においてお亡くなりになられた方々のご冥福と、被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに一日も早い復興をお祈りいたします。

新年のご挨拶

はじめに

新年あけましておめでとうございます

皆様におかれましては、健康で、希望に満ちたお正月を迎えられましたことを心より、お喜び申し上げます。

皆様の多大なるご支援により、地域住民の代表として、議会活動に議員一同、精励できましたことに對し、改めて感謝申し上げます。

2024年の干支「甲辰（きのえたつ）」は、「春の日差しが、あまねく成長を助く年」とあり、春の暖かい日差しが大地すべてのものに平等に降り注ぎ、急速な成長と変化を誘う年になると言われております。本町にとりまして、広い範囲に行きわたる、成長する一年としたいものであります。

さて本町議会は、これまで新田原基地関連の要望活動が続けてまいりましたが、昨年の大きな成果として、本町に交付される特定防衛施設周辺整備調整交付金が、対前年度比9845万3千円増額されたこと、また、建築資材の価格上昇等の影響による住宅防音工事費の限度額見直し、調整交付金の交付時期が前倒しされたことなど、財源確保の一助となりました。

今後、基地の所在する町として、将来に向けて何が残せるのか、ここ数年が正念場であると考えます。これからも執行部と連携しつつ、国からの目に見える形での支援等、要望の実現に努めてまいります。

次に、全国的に議員のハラスメント問題に、社会的な関心が高まっていることから、本町議会でも、現在、ハラスメント防止に関する規定を制定する準備を進めております。

このことは、議員自らハラスメントを予防し、個人の尊厳を尊重する事で、町の良好な執務環境を確保するものであります。

引き続き、議員一同、町の発展や町民福祉の向上と信頼される議会を目指す決意を新たにしているところでございます。

結びに、議会に対する町民の皆様の尚一層のご理解とご協力をお願いいたします。

本年が皆様一人ひとりとって、実り多き、すばらしい一年となりますよう、ご祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

新富町議会議長

阿萬 誠郎

令和5年（第7回） 新富町議会12月定例会

令和5年12月1日～15日の15日間で開催。8つの補正予算、13の条例改正案などについて審議。以下は主な議案と説明です。

※議案一覧と審議結果は12ページに掲載

議案第59号 令和5年度一般会計補正予算(第10回)

・歳入歳出の総額にそれぞれ**9億6,239万7千円**を増額し、予算の総額は**148億5,110万円**となった。

《主な事業と予算》

保育料助成 ※継続事業

1,040万8千円

入所児童増加に伴う増額

戸籍情報システム改修業務委託

389万4千円 ※新規事業

氏名の振り仮名法制化に伴う
戸籍情報システムの改修

ため池ハザードマップ
作成業務委託

390万円 ※新規事業

ため池決壊時の危険個所を地図で表記



総務産業常任委員会報告

総務産業常任委員会は議案15件、承認1件について審査を行った。議案では、一般会計補正予算の増額修正や、人事院勧告に伴う国家公務員の給与改定に準じた町職員等の給与改定等に関連する条例、来年度から内部組織を充実させるための条例等が上程され、承認案件では、低所得者に対する支援や子育て支援事業に対し事業経費等の増額を専決処置したことが上程された。委員会では全会一致で可決、承認した。

文教厚生常任委員会報告

文教厚生常任委員会では議案9件について審査を行った。予算では人事院勧告に伴う町職員等の給与改定予算等が計上。その他、特定防衛施設周辺整備調整交付金を財源としたがん検診や予防接種などの健康支援、子育て世帯への支援、し尿処理施設維持管理や学校給食無償化のための基金制度を制定する条例。また、9か所の地区児童用プール設備を隣接している保育園に移譲するための条例が上程され全会一致で可決した。

令和5年（第6回） 新富町議会10月臨時会

令和5年10月13日に開催。議案第56号令和5年一般会計補正予算ほか2つの議案などについて審議。以下は主な議案と説明です。

※議案一覧と審議結果は12ページに掲載

特定防衛施設周辺整備調整交付金
確定に伴う増額修正

6 4 2 9 万 4 千 円

各種基金積立金ほか

富田浜プール健全度調査業務委託

7 4 0 万円

富田浜プール再開に向けた調査費

臨時議会報告

特 別 委 員 会 報 告

基地対策特別委員会

基地対策特別委員会は、7月、8月に防衛省地方協力局ほか関連部局に対して要望活動を行い、航空自衛隊新田原基地の騒音対策や安全安心対策、基地所在自治体の活性化対策などを求めた。防衛省では大臣に直接現状を伝える機会を得た。これまでの要望活動の成果として、特定防衛施設周辺整備調整交付金が9,845万3千円と大幅に増額され、総額で4億5,540万3千円となったほか、住宅防音工事費の限度額見直しなどの成果を得た。今後も私たちの要望が国にしっかりと受け止められるように訴え続け、全ての要望が実現できるように取り組んでいく。

議会活性化特別委員会

12月26日中高生を対象に「議員と語ろう会」を開催しました。
詳細につきましては次号の議会だよりで報告いたします。





いび かねひさ
議員 兼 久 損

町長

一ツ瀬川樋門 管理の今後は

慎重に検討する

防災危機管理について

問 10月、12月の津波注意報に対する町の対応は。

町長 どちらの場合も直ちに情報連絡本部を設置して情報収集するとともに、防災ラジカ等を通じて海岸地域から離れるよう注意喚起を行った。また、津波注意報解除までの間、消防団による警戒を実施した。

問 今年度実施した地震津波対応の防災訓練と今後の計画は。

町長 11月5日に県総合防災訓練に合わせて実施した。希望の里、横江、五反田の各津波避難施設への避難訓練に約160名参加。今後も、各地



今後の樋門管理は

区等への防災講話や訓練等を通して防災意識の向上に取り組み、地区等が自主的に実施する避難訓練を積極的に支援していく。

問 一ツ瀬川樋門管理の今後の方針は。

町長 樋門開閉の判断を町が実施するのは困難。災害時に消防団に樋門操作を依頼することは危険を伴うため、県に改善を求めている。進展はみられませんが受託は慎重に検討する。

新田原基地関連について

問 11月に行われた自衛隊統合演習で新田原基地に飛来したF35Aの騒音測定の結果は。

町長 町の目視調査個所での結果は、離陸時に114dBから116dBでありF15と大差なかった。



着陸するF-35A

問 今後の日米共同訓練の計画は。

町長 12月8日～12月20日まで、F/A18戦闘機10機程度、人員300人程度が参加し、空自はF15が12機参加するタイプIIの訓練が実施される。その他、F35Bが2機参加すると聞いている。

農業関連について

問 農業収入保険の加入状況は。

町長 対象農業者246名のうち加入者111名。加入率45・1%。加入率向上のため広報に努める。

問 鳥インフルエンザに対する町の備えは。

町長 施設の再点検、衛生管理の周知徹底、防疫演習及び町新人職員の教育など、体制を強化した。



F-35Bの騒音調査を要望した



議員 一孝 かしわぎ ちろ
町長

LGBTに関する

町職員への教育等は

人権に関する 様々な研修を実施

問 LGBT理解増進法の施行にあたり、町としての取り組みは。

町長 一人ひとりの人権が尊重される多様性社会の実現に向けて、パートナーシップ宣誓制度の導入や障がい者雇用の推進、人権擁護委員による「人権なやみごと相談所」の開設、男女共同参画の促進など、幅広い分野において取り組みを行っている。

問 町職員等への教育は。

町長 会計年度任用職員を含むすべての職員に対し、年間を通してパワーハラスメントやセクシャルハラスメント等の人権に関する様々な研修を実施している。



“偏見、差別のない社会実現へ”

問 セクシャルマイノリティについて町長の認識を伺う。

町長 セクシャルマイノリティとは、「性」と「少数派」を含む意味で、LGBTなどを含む広い意味で用いられている。一人ひとりの人権や多様性を尊重し、すべての人が安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいく。

問 ソフト面、ハード面の今後の対応は。

町長 ソフト面ではセクシャルマイノリティについての正しい知識と理解を深める教育や啓発活動に取り組み、ハード面では、すでに設置している庁舎内男子トイレの仕切りのほか、今後ジェンダーにとられない空間づくりなど、できることから取り組んでいきたい。



プライベートな空間作り

新富温泉

サンルピナスについて

問 温泉の位置づけと今後は。

町長 温泉健康センターは、町民の健康増進を目的とした施設で、町外からの利用も多く、

交流人口拠点の一つにもなっている。今後は、施設の老朽化対策として改修等も念頭に、施設を存続させるよう長寿命化に取り組んでいく。

問 新しい指定管理者の取組事業は。

町長 前指定管理者が取り組んできた売店と物品販売の充実、利用者の利便性向上のためのコインランドリーの設置、町が行う健康体操教室への場所の提供に加え、賑わい創出のための「温泉まつり」の開催など、初年度ではあるが様々な自主事業に取り組んでいる。



賑わいの場として期待



いまむらゆきのぶ

今村行信議員

町長

都市計画用途地域内の
道路拡張整備は

適切に検討して参りたい

問 昭和48年に都市計画区域に指定された地域では、農地整備がされず、高齢化や農道が狭く農業機械の大型化に対応できず遊休農地が増加している。宅地化するには、現在の道幅ではできないため、建築基準法の規定に合わせた道路拡張整備が必要と考えるが町長の考えを伺う。

町長 都市計画区域内に建築する際の条件である、敷地との接続道路が少ないことが考えられる。今後、当該地域内の道路整備は、どのような手法が適切かつ効果的であるか検討していく。



コンビニなど建設が進む



都市開発が望まれる

農業振興地域の

農地について

問 農家の高齢化と農業後継者の減少に伴い遊休農地が年々増えてきており、今後ますます農地保全・環境整備等が難しくなると思われる。今後の対応策について伺う。

町長 新規就農者及び農業後継者への支援、遊休農地解消に向けて農地パトロールの実施、農地利用の最適化を図り、担い手への集約化等を進めていく必要がある。目指すべき農地活用について、話し合いによる各地域の実情に合わせた地域計画の策定に取り組んでいる。

自治会の活性化は

問 人口減少と高齢化が進む自治会で、今後は自治会加入者が減少し、脱退者が増加していく事などにより自治会運営等

へ影響が出てくると思われるが、現状と町長の考えを伺う。

町長 自治会加入率は令和4年度が60.3%、令和5年度が58.8%とやや減少傾向であり、高齢化の進展は地区運営にも影響を及ぼしていることは承知している。町では、転入手続きの際に地区加入の啓発を行っており、今後もより一層地区の必要性や役割について啓発に取り組み加入促進を図っていきたい。



魅力ある地区運営と行政のサポートを



まつうら みお
松浦美緒議員

町長

AED付属品に

三角巾の設置を

三角巾は有効

早急に配置する

問 AED町内公共機関の設置状況及び屋外設置状況を伺う。

町長 庁舎をはじめ町立学校・公立公民館及びスポーツ施設等に合計21台設置しており、そのうち屋外は6台設置している。

問 設置場所がホームページに記載されているが、名称と電話番号のみで分かりにくい。マップに表示するなどわかりやすくできないか。

町長 地図に分かりやすく表示し、広報にも努める。

問 AED講習会の開催状況を伺う。



命をつなぐAED

町長 町立学校では教職員を対象に、公立公民館やスポーツ施設では委託業務従事者を対象に、それぞれ年1回開催している。

問 町民向けの講習会も大事であると思うが考えを伺う。

町長 コロナ禍前はAED講習会を開催していた。今後も開催できるよう検討する。

骨髄バンクについて

問 骨髄ドナーへの奨励金事業を行っている県内自治体が現在15自治体、宮崎県は導入自治体に2分の1の補助を行っている。本町も骨髄ドナーへの奨励金導入の考えはないか。

町長 町での対応が必要と認識した。今後対応していく。



登録しやすい環境を望む

投票率向上に向けた

取り組みについて

問 支援が必要な方が、スムーズに投票手続きできるコミュニケーションボードを導入する考えはないか。

答 次の統一地方選挙に向け、ボードの導入も含め検討していく。

献血について

問 献血者の推移を伺う。

町長 県内献血者数は平成30年度3万9929人、令和4年度4万2258人。コロナ禍で献血バスの利用者は減ったが献血ルームの利用者が増え、全体で増加となった。町内は平成30年度614人、令和4年度460人と減少傾向にある。

問 献血者数を増やす取組状況を伺う。

町長 年間50人程度町職員を献血ルームに派遣し、成分献血をしている。また公共施設内にポスターの掲示、献血バスの積極的な受け入れなど行っている。



献血に行こう



みうら ちひろ
三浦千尋議員
町長

本町活性化策について

長期総合計画に沿って示したい

問 土地利用計画の考え方、進捗状況を伺う。

町長 自然環境の保全や生活環境の確保しつつ、調和の取れた土地利用の誘導に務める。具体的には都市マスタープラン及び田園環境整備マスタープラン等に基づき進める。

問 現在進行中の三つのプロジェクトがあるが、この計画を詳細化し、進展させ、ロードマップを示す時期ではないか。

町長 現在「三納代地区活性化エリア整備」「新富スマートインター整備」「新田西地区圃場整備」があり同時進行中。附带的に連携する企業誘致事業については個別に連携を進める。

農業問題について

問 農業公社「ニューアグリベース」の現状と課題は。

町長 新規就農者の育成、農産物を活用した商品開発、農産物直売所の建設、民間と連携したスマート農業実証実験などを進めている。農業情勢の動向を注視しながら事業展開を進める必要がある。

問 新規就農や事業の承継に取り組み、新品種、特定品種等の開発・集積、町産品の市場拡大は不可欠だと考える。成果年次、目標を伺う。

町長 現在建設中の直売所売上10億円を目指し、町内産品消費拡大を期待する。



新品種開発に期待

町営牧場跡地活用について

問 町営牧場活用計画の進捗状況を伺う。

町長 町営牧場跡地は担い手育成施設として活用を検討。令和9年度受け入れ開始に向け取り組んでいる。

各種助成制度について

問 奨学金制度利用状況を伺う。

教育長 高校、短大、大学生の計13名に対し貸与総額298万円。



活気ももどってきたイベント

問 県内で就職し、町内を生活拠点とする人には返還を免除、町外を拠点とする人は半額免除などの措置を設けることは、人口減少対策の一環として意義があると考えるが検討できないか。

町長 奨学金のあり方を含め検討したい。

まちづくり補助事業 利活用について

問 現在各種イベントが再開されているが、今後制度拡充は出来ないか伺う。

町長 まずは現行制度の広報に努め、広く住民に認知されるように取り組んでいく。



おおきしゅんじ
大木俊二議員
町長

町の出生率向上の具体策は

5つの無償化で支援

問 出生率向上の具体策を伺う。

町長 現在、子育て支援の具体策として「5つの無償化」を柱に実施している。

- ① 学校給食費の無償化
- ② 高校生までの医療費無償化
- ③ 妊婦健診の無償化
- ④ 国民健康保険税の中学生以下の均等割額の全額免除
- ⑤ 保育料の完全無償化

これらの施策を同時に実施している自治体は、県内はもとより全国的にも類をみないものとなっている。



子育てしやすいまちづくり

問 保育料の無償化などで新富町に転入したいと問い合わせはあったか。

町長 町外からの転入と同時に期に保育所に入所した世帯は、4月から現在まで18世帯、児童数として27名が新規に入所している状況です。これは、無償化実施から9ヶ月で、6歳未満の児童数を約3・6%押し上げる効果となっている。このほか、転入と入所の相談を受けている世帯が10世帯ある。

ふるさと納税について

問 今年度の目標額と納税額の推移は。

町長 今年度の目標額は、最終的に20億円を目指して鋭意努力している。11月末時点で10億886万7533円を収入済みで、前年度比で196%の増収となっている。

企業版ふるさと納税の目標額は2億2955万4千円で、11月末までの収入額は6730万円、前年比61%であるが、年度末の事業決算時期に向け積極的な取り組みをおこなう。

問 ふるさと納税の活用は。

町長 福祉の増進やまちづくりに資する様々な事業を展開している。令和5年度は商工業活性化や社会福祉推進、行政デジタル化などの事業に活用しており、またスマートインターチェンジの新設事業などをはじめ40を越える事業に活用している。

富田浜公園について

問 富田浜公園の流れるプールの改修計画は。

町長 富田浜プール健全度調査を始めたところ。今後については、プール運営の受託業者確保が困難になっている課題もあるので、本調査の結果等も踏まえながら総合的に判断し、検討していく。



再開が望まれる富田浜プール



こやま さなえ
小山早苗議員
町長

コミュニティ・スクール が目指すものは

学校と地域の活性化

問 コミュニティ・スクールの目指すものは。

教育長 「子や孫たちが帰ってきたくなるまち」「生涯を通して活躍できるまち」を理念に、学校の目標や課題について学校と地域が話し合い、地域が学校に、学校が地域にできることを考え、お互いが活性化できることを目指している。



学校づくりは地域から

問 学校運営協議会の役割は。

教育長 学校、保護者、地域等の代表者が、学校の運営と支援について話し合っていく協議会のことで「学校長が作成する学校運営基本方針を承認する」「学校運営に関する意見を教育委員会や校長に述べる」「ことができる」「教職員の任用に関して教育委員会に意見を述べる」ことができる」の3つとしている。

問 地域学校協働活動推進委員の役割は。

教育長 地域と学校が相互にパートナーとして情報共有し、連携・協働して行えるように活動の企画・調整・運営・地域住民への呼びかけなどをする。



まずは自分で備えを

南海トラフ巨大 地震の備えについて

問 大規模地震発生時の避難所について。

町長 町体育館などの公共施設79ヶ所を指定避難所としている。大規模地震発生時には職員を参集し、災害対策の体制を整え対応するが、職員が被災者となることも予想されるため、避難所開設に時間を要することが予測される。それまでの間は津波浸水や余震等から安全を確保できる避難場所を身を守っていただくことになる。と考える。

スポーツ・健康 まちづくりについて

問 何が評価され優良自治体表彰に繋がったのか。

町長 年齢や性別に関わらず、すべての人がサッカーの応援で一つになりまちの一体感を醸成すること、サッカーを通じた移住者や交流人口の拡大、まちの活性化を図るなど、掲げている目標に対して国に評価された。

問 今後どのように町の発展につなげるのか。

町長 国が先進的なモデル自治体として積極的にPRするとしているため、関係人口や交流人口の拡大に活かしていくとともに、今後も様々な団体と連携し、さらなる地域活性化を目指していく。



令和5年臨時会(10月13日) 議案等の審議結果

番 号	件 名	結 果	
議案第56号	令和5年度新富町一般会計補正予算	可決	全員
議案第57号	新富町国民健康保険税条例の一部を改正する条例	可決	全員
議案第58号	工事請負契約の締結について（令和5年度 準用河川五反田川災害復旧対策工事）	可決	全員
報告第12号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定め和解することについて）	—	—

令和5年12月定例会 議案等の審議結果

番 号	件 名	結 果	
議案第59号	令和5年度新富町一般会計補正予算	可決	全員
議案第60号	令和5年度新富町国民健康保険特別会計補正予算	可決	全員
議案第61号	令和5年度新富町介護保険特別会計（保険事業勘定）補正予算	可決	全員
議案第62号	令和5年度新富町後期高齢者医療特別会計補正予算	可決	全員
議案第63号	令和5年度西都児湯情報公開・個人情報保護審査会特別会計補正予算	可決	全員
議案第64号	令和5年度新富町土地取得特別会計補正予算	可決	全員
議案第65号	令和5年度新富町介護保険特別会計（介護サービス事業勘定）補正予算	可決	全員
議案第66号	令和5年度新富町水道事業会計補正予算	可決	全員
議案第67号	新富町いきいき健康基金条例	可決	全員
議案第68号	新富町こども育む基金条例	可決	全員
議案第69号	新富町し尿処理施設維持管理基金条例	可決	全員
議案第70号	新富町学校給食運営基金条例	可決	全員
議案第71号	一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例	可決	全員
議案第72号	町長、副町長及び教育長の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例	可決	全員
議案第73号	新富町議会議員の議員報酬及び費用弁償の支給に関する条例の一部を改正する条例	可決	全員
議案第74号	新富町長の内部組織の設置及びその分掌事務に関する条例の一部を改正する条例	可決	全員
議案第75号	地方自治法の一部を改正する法律の整備に関する条例	可決	全員
議案第76号	新富町行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例	可決	全員
議案第77号	新富町印鑑登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例	可決	全員
議案第78号	新富町手数料徴収条例の一部を改正する条例	可決	全員
議案第79号	新富町地区児童用プール設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例	可決	全員
議案第80号	工事請負契約の締結について（令和5年度硬質フィルムハウス新設工事）	可決	全員
議案第81号	新富町道の路線認定及び廃止について	可決	全員
議案第82号	工事請負変更契約の締結について （令和4年度防衛施設周辺民生安定施設整備事業 鬼付女橋側道橋上部工工事）	可決	全員
議案第83号	令和5年度新富町一般会計補正予算	可決	全員
承認第11号	専決処分の承認を求めることについて（令和5年度新富町一般会計補正予算）	承認	全員
報告第13号	専決処分の報告について（損害賠償の額を定め和解することについて）	—	—

行政調査報告

総務産業常任委員会

総務産業常任委員会は、高知県四万十市、須崎市等を行政調査を実施。



四万十市では、南海トラフ大地震に伴う被害が新富より大きいと予測されていることから、地域防災計画の内容や啓発活動の実態を調査した。啓発活動の一環として防災訓練を頻繁に行うとともに、小中高生に対する防災教育等が充実していることが解った。



須崎市は特産物も豊富であり、加工業も充実している。返礼品は海産物から竹製品、土佐刃物、おの式薪ストーブ、競走馬引退後の余生支援と幅広くユニークな返礼品があり魅力あふれている。返礼品の開発はニーズの把握等、担当者との連携が大切である。

所見

防災対策の調査では、想定される被害規模や土地の地形など地域特性に応じた取り組みが見られた。急傾斜地でのゴンドラ付き避難タワーは立地特性を考慮した設備であり、避難弱者への配慮もされ有効であると確認できた。ふるさと納税返礼品では特産品や加工品だけでなくアイデアを練って魅力を高める取り組みが見られた。新富町では「こゆ財団」がしっかりと対応しているため、今後も期待できることが解った。

文教厚生常任委員会

文教厚生常任委員会は岩手県紫波町、大槌町、釜石市で行政調査を実施。



紫波町では、役場に隣接する商業施設や宿泊施設の混在する複合施設に図書館や子育て支援センターがあり、町外利用者も多く、人の流れを有効的に活用していた。また、子育て支援部門を教育委員会内に設置し、生まれてからすべてを切れ目なく支援する体制がとられていた。



釜石市では在宅医療と在宅介護の連携について、在宅医療連携拠点「チームかまいし」を調査。「チームかまいし」が中心となり、医師、訪問看護、薬剤師、介護事業所、行政等の関係者との意見交換会等を重ね連携を深めていた。



大槌町は、震災で心に傷を負った子どもたちが誰一人取り残されないように、ケアする姿勢がみられた。コミュニティスクールの取り組みでは、低・中・高学年毎の学習の狙いを決め、コーディネーターが活動にあった地域人材をマッチングさせていた。

所見

岩手県沿岸部は震災の跡がいまだ色濃く残っており、一度崩壊したコミュニティを再構築するために多くの意見を取り入れて先進的なモデルとなっていた。今回の行政調査では実際に震災の爪跡、復興の様子を目の当たりにし、関係者の話を聞いたことで、今後想定される大災害にむけた準備と対策、社会問題化していく福祉と子育て、教育環境の整備に向けて参考となる取り組みに触れることができ、大変実りあるものとなった。

Pick up

令和6年はたちの集い実行委員会



2020年から流行したコロナウイルス感染症は今年度5類に移行され、様々な規制や制限が緩和されました。ようやく明るい生活が取り戻されつつあります。コロナ禍が明け新たな出逢いが増えてきました。人と人との出逢いは小さな奇跡だと思います。これからの新たな出逢いを大切にしたい、これまでに出逢った人や自分たちを創り上げてくれた人に感謝をしながら生きていきたい。そんな思いを込めて私たちは「逢」というテーマに決めました。

私達は実行委員会の6名です。昨年9月から10回以上の委員会を重ね準備をしてきました。みんな仕事や学校があるので全員が集まるのは大変でしたが無事に集いが終わられて嬉しいです。



式典の準備に奔走する実行委員

啓発活動ありがとうございます

当日は新富地区交番・駐在所連絡協議会や少年補導員の方々、新富町選挙管理委員会委員、明るい選挙新富町推進協議会の方々が「はたちの集い」会場ロビーに110番の日のPR活動と明るい選挙のPR活動にいられていました。二十歳のお祝いに110番の日のPRのファイルと明るい選挙啓発のしおりが配られました。また、新富町赤十字奉仕団の皆さんより紅白まんじゅうも配られました。

連絡先 議会事務局

☎ 333-6139

議会広報特別委員会
委員長 羽田野 治
副委員長 小山 早苗
委員 今村 行信
松浦 美緒
石崎 俊二
揖斐 兼久

あとがき
2024年元旦、恒例の神社参りと富田浜の初日の出を拝み、今年も穏やかな新年を迎えることができた。いつものように家族の健康を祈願したいつもの正月だった。夕方方のいきなりの地震速報で正月気分が一転した。
「天災は忘れたころにやってくる」ことわざの如く天災は暦など関係なく容赦なくやってきた。自然への恐怖とともに、いつ襲ってくるかわからない災害にしっかりと備えなければと改めて思った。また、年頭より「防災にやりすぎはない」と、この震災を機に強く感じ確信と変わった。
さなえ